

平成28年度

まちづくり懇談会実施結果報告書

(富士見地区)

宇都宮市総合政策部広報広聴課

**平成28年度 第3回  
まちづくり懇談会《富士見地区》実施結果報告書**

この実施結果報告書は、まちづくり懇談会《富士見地区》における発言の要旨をまとめたものです。

- 1 開催日時 平成28年7月28日（木）午後6時30分～午後8時
- 2 開催場所 富士見地域コミュニティセンター
- 3 参加者数 21人（市出席者除く）
- 4 市出席者 市長，総合政策部長，広報官，地域まちづくり担当副参事，西市民活動センター所長，道路建設課長，広報広聴課長

5 懇談内容

(1) 地域代表あいさつ

富士見地域まちづくり推進協議会会長

(2) 市長あいさつ

(3) 地域代表意見

| No. | テ ー マ                 | 所管課                   |
|-----|-----------------------|-----------------------|
| 1   | 都市計画道路整備の推進について       | 技術監理課，都市計画課<br>市街地整備課 |
| 2   | 退職した市及び県の職員の自治会参画について | みんなでまちづくり課            |

(4) 総合計画の6つの柱に基づく意見交換

| テ ー マ                          |                         |                 |
|--------------------------------|-------------------------|-----------------|
| 都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために |                         |                 |
| (1) 機能的で魅力のある都市空間を形成する         |                         |                 |
| (2) 円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する     |                         |                 |
| No.                            | 要 望                     | 所 管 課           |
| 1                              | LRTについて (1)             | LRT整備室<br>交通政策課 |
| 2                              | LRTについて (2)，防犯灯のLEDについて | LRT整備室          |

|  |  |                    |
|--|--|--------------------|
|  |  | 交通政策課，財政課<br>生活安心課 |
|--|--|--------------------|

(5) 自由討議

| No. | 要 望                | 所 管 課           |
|-----|--------------------|-----------------|
| 1   | 子どもの家について          | 生涯学習課           |
| 2   | 一条中の学区について         | 学校管理課           |
| 3   | 鶴田おおぞら公園への倉庫設置について | 公園管理課           |
| 4   | 都市計画道路整備について       | 市街地整備課<br>技術監理課 |

(6) 来賓あいさつ

地区居住市議会議員 佐々木 均氏

(7) 市長謝辞

## ■地域代表意見 1 (要旨)

|            |                        |
|------------|------------------------|
| <b>テーマ</b> | <b>都市計画道路整備の推進について</b> |
|------------|------------------------|

都市計画道路の整備の推進について、栃木街道の東側は土地の価格が高いが、この地域はその半分だそうで、では、なぜ安いのか不動産屋に聞いてみたところ、道路が乱雑でごちゃごちゃしているからだという話をいただいた。

地価が安ければ住みやすいとは思いますが、ただ、災害が起きた時はどうなのかと思う。我々の自治会内には、東西に赤道（あかみち）が一本通っているだけで、あとは毛細血管のように細い道路ばかりで行き止まりになってしまうという状況である。消防車が入ってくることができない事態が懸念される。

昔、区画整理の話があったが、強く反対される方がいて、そのまま話がなくなってしまい、そのへんのしこりがあるのか、下水道やその他の整備も他の地区に比べて遅れているなど様々な話を聞いた。

できればこの地区の安全や防災上の安心を一層高めるために、区画整理を実行していただきたく、なるべく早い実行をお願いしたい。

|           |                               |
|-----------|-------------------------------|
| <b>回答</b> | <b>所管課：市街地整備課，都市計画課，技術監理課</b> |
|-----------|-------------------------------|

**【市長】**

区画整理事業については、宇都宮大学東南部第1，第2地区や鶴田第1，第2地区などで区画整理事業を行っている。

宇都宮には、狭あいな道路や袋小路がまだ多くみられるが、道路の拡幅や区画整理事業により、そうしたところが減ってきている。

区画整理事業を行った地区は大変苦勞する。自分たちの住んでいるところが変わっていくわけであり、土地も減歩され、提供もしなくてはならない。また、時間もかかる。しかし、それだけの苦勞をされただけあり、区画整理事業が終了すると、喜んでいただき、土地の価値も上がることになる。

こうした細い道路や突きあたりが多いのは、戦後、行政が整備する前に、次々と復興してしまい、家も建ち、無秩序なまちの形成が広がってしまったからだと思う。

それを解決する手法の一つが区画整理事業であるが、こればかりは皆様の賛同がなくては前に進まない。昭和41年に都市計画決定された小幡・清住地区がやっと約3年前から再開した。このままでは住みづらい、消防車も入ってくることが出来ないということもあり、話し合いの場が持たれて、いよいよ区画整理事業が始まり、現在は土地の買収が進んでいるところである。

区画整理事業については、皆様で決めていただき、早急に道路の整備をして区画整理をして狭あいな道路の解消をしていけば、住みやすいまちに繋がると思う。

行政としては、区画整理事業は進めていきたいが、地元の方々の意向がまずは先決であるので、地元で話し合いもしていただけると大変ありがたい。

|            |                           |
|------------|---------------------------|
| <b>テーマ</b> | <b>都市計画道路整備の推進について（再）</b> |
|------------|---------------------------|

具体的に、順番とか今後について、もう少しお話いただければありがたい。

|           |                   |
|-----------|-------------------|
| <b>回答</b> | <b>所管課：市街地整備課</b> |
|-----------|-------------------|

【市長】

宇大東南部第1，第2地区や鶴田第1，第2地区などについて区画整理事業を行っているが，そのうち，鶴田第1地区は完了しており，第2地区についても一定進捗が図られたところである。

また，最近，小幡・清住地区で区画整理事業が始まったところであるが，順番というより，地元で意向をまとめるのに相当時間がかかると思う。意向がまとまれば，我々も話を受けることができるので，まず，アウトラインをつくったり，皆様に意見を伺ったりという勉強会が始まることになるので，意向がまとまれば勉強会を始めていきたいと思う。

## ■地域代表意見2（要旨）

|            |                              |
|------------|------------------------------|
| <b>テーマ</b> | <b>退職した市及び県の職員の自治会参画について</b> |
|------------|------------------------------|

富士見地区には31自治会があるが，そのうち約半分は1年または2年で会長が交代している。なぜかというとなり手がいないからである。私の記憶では，人口に対して，市の職員が約1%いるということであり，県の職員も入れるともっと思う。私の自治会は約300世帯あるが，そのうち何人かは市の職員OBか市の現役職員であるわけである。そういう人に役員になっていただけない。声を掛けても，忙しいからとか，首を突っ込むと一生抜けられないから嫌だと断られてしまう。

まず，市の職員は市との繋がりがある。我々は市の職員ではないので，市の行政について全く分からず，何かをするにしても大変時間がかかってしまい，そういう時に市の職員が自治会役員にいれば，どこにどういうふうに頼めばいいのかすぐにわかるのである。

ぜひ，市の職員は退職した時に，地域に協力していただき地域活動に出ていただきたい。会長になってくれとは言わないが，ぜひ役員として名乗り出ていただきたい。

こちらから声を掛けるだけではなく，退職したけれど手伝えることがあるかとなるように，市あるいは県の中で強気に働きかけをしていただければ，各自治会ももう少し楽なやり方ができると思う。よろしく願います。

|           |                       |
|-----------|-----------------------|
| <b>回答</b> | <b>所管課：みんなでまちづくり課</b> |
|-----------|-----------------------|

【市長】

自治会の加入率の低下ということで，世帯数が増えているので率としては落ちているが，加入者数は増加傾向にあり，宇都宮市自治会連合会が加入促進の委員会を特別つくり，市と共に加入増加に向けた取組を進めている。

自治会は、市民協働の最も大きなパートナーであり、自治会がなくなると税金で全てを行わなければならなくなり、失うものは大きいと思う。隣に住んでいる人の顔も分からない、お互いに助けあうこともしない冷たい社会になってしまうので、自治会はこれからも存続していただきたい組織である。

市の職員には、年度が変わる時に、自治会へ加入し、自治会の中でお手伝いが出来る人になってもらいたいという話をしている。

特に、課長研修、係長研修、新採用職員研修では、私が研修を行うので、その時に、自治会の頼もしさ、自治会の必要性、自治会で手伝いをしてもらいたいということと、自治会、消防団、民生委員・児童委員、福祉協力員への協力について話すほか、退職する職員へは、私が、退職の説明会で、退職後、自治会や様々な各種団体への参画の勧誘に努めているところである。

現役の職員は消防団、自治会、PTAに相当数が参画している。さらに人数を増やしていきたいと思うし、県職員については、知事も賛同いただけると思うので、県にも話をしたいと思う。

|            |                                 |
|------------|---------------------------------|
| <b>テーマ</b> | <b>退職した市及び県の職員の自治会参画について（再）</b> |
|------------|---------------------------------|

よろしく願います。難しいと思うが、誰が退職したという情報を自治会に提供してもらえるとやりやすい部分もあると思う。これは、個人情報に関係もあるので難しいと思うが、自治会長といえども、誰が市の職員なのか分からないので、市として辞めたら自治会を手伝ってくれと職員に言ってくれても、知らんぷりをされてしまうと、全く分からないので、うまくコミュニケーションを取る方法があればと思うが、その辺もよろしく願いたい。

## ■総合計画の6つの柱に基づく意見交換（要旨）

|            |   |
|------------|---|
| <b>テーマ</b> | <b>都市のさまざまな活動を支える都市基盤の機能と質を高めるために</b><br><b>(1)機能的で魅力のある都市空間を形成する</b><br><b>(2)円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する</b> |
|------------|---|

総合計画は宇都宮市のまちづくりの方向性を示す羅針盤のようなものである。まちづくりの最も基本となる計画であり、全市民の5年後の幸せ、100年後の都市の繁栄に向けた道筋となっている。

### (1)機能的で魅力のある都市空間を形成する

少子・超高齢化、人口減少社会においても、住み慣れた地域において誰もが安心して暮らすことができ、持続的で発展できる都市を実現するため、本市では将来目指す

べき姿として、「ネットワーク型コンパクトシティ」を掲げ、地域の方の御意見を伺いながら、平成27年2月にビジョンを作成したところである。

具体的には、市内の各地域に拠点を定め、そこに銀行や診療所、商店など、日常生活に必要な機能をコンパクトに集積させるとともに、これらの拠点間を、車がなくても公共交通等を利用して移動できるよう、ネットワーク化を図っていくこととしている。

富士見地区については、中心市街地に隣接し、中央図書館や総合コミュニティセンターなどの公共施設や、医療・福祉施設、スーパーマーケットなどの様々な施設が集積されており、日常生活に必要な各種機能が充実している地域である。

このため、富士見地区においては、今後とも日常生活に必要となるサービス機能の維持・誘導に努めていくとともに、各地域においても拠点化を進めながら、全ての市民が、各拠点に快適にアクセスできる移動環境を形成していく。

こうした理由から、目標として、「市内の地域がその特性に応じた個性や魅力、都市機能を備え、コンパクトで調和のとれた都市空間が形成されています。」を望ましい姿として設定した。

その目標達成に向けた主な事業は、公共施行土地区画整理事業の推進や魅力ある都市景観づくりの推進などである。富士見地区には便利な機能が揃っているが、スーパーマーケットや薬局などの民間施設は、地元で積極的に使っていただかないと無くなってしまう場合がある。無くなってしまった民間施設を再度誘致することは大変苦勞する。今あるものを無くさないようにする努力についても各地域の皆様にはしていただきたい。

主な施策指標は、市街化区域の宅地率の増加、土地区画整理事業の整備面積の増加などである。

## (2)円滑で利便性の高い総合的な交通体系を確立する

「ネットワーク型コンパクトシティ」形成に向けては、各地域における拠点化を進めるとともに、これらの拠点間を誰もが移動しやすい公共交通ネットワークを構築していくことが必要である。

そのため、現在、基幹公共交通であるLRTの整備や幹線公共交通であるバス路線の充実とあわせて、郊外部においては、それらを補完する公共交通として地域内交通の整備に取り組んでいる。

郊外部の地域内交通は、通院や買い物など、地域住民の日常生活の移動手段を確保するために地域が主体となって導入を進めており、「ドア・ツー・ドア」の移動によるデマンド方式や、定時定路方式など、地域の実情に応じて運行している。

今後は、市街地部における公共交通の不便地域を解消していく必要があることから、地域の状況に応じた、バスや乗合タクシーの活用方策などを示したガイドラインを本

年1月に作成したところであり、地域から要望があれば、勉強会を開催するなど、地域住民が利用しやすい公共交通となるよう、富士見地区の皆様と共に検討していきたい。

また、安全で快適な自転車走行空間を確保するため、自転車道の整備に取り組んでおり、富士見地区においても、整備済である富士見通りに加え、陽西通りを重点整備路線に設定しているため、順次整備していく。

これらの理由から、目標として、「総合的な交通体系の構築により、公共交通や自動車、自転車などのあらゆる交通手段が相互に連携した、円滑で利便性が高く、安全で、ひとや環境にもやさしい、だれもが利用しやすい交通環境がつくられています。」を望ましい姿として設定をした。

目標達成に向けた主な事業は、LRTの整備、公共交通の利用促進であり、駅東のバス路線再編のための調査を実施した。

また、これからは、東武線、JR線、LRT、バス路線、そして地域内交通といった全ての公共交通がカード1枚で乗り降りができる、スイカやパスモのようなカードを持っていただき、高齢者や障がい者、子どもなどの利用者については割引を適用し、観光客には、1日券を買っていただいて、自由に乗り降りができるようなICカードの導入を考えている。

主な施策指標であるが、一日あたりの公共交通利用者数の増加などである。

## 発言1 LRTについて(1)

ICカードの導入などの具体的な話をたくさん伺えた。私はLRTに賛成である。

なぜかという、宇都宮は公共インフラがほかの県庁所在地よりも少し遅れているからである。そこで、まずLRTと真岡鐵道を繋いだらどうだろう。将来的には、東武線の駅や鹿沼の駅と繋ぐことも考えられる。真岡鐵道で、芳賀町役場の少し先にある市塙(いちはな)駅と繋いでほしい。

また、ICカードは非常にいいことだと思う。

そこで、年次計画を聞きたい。何年計画で実行されるのか。

LRTは大きな考えを持って、ぜひつくっていただきたい。ぜひそういう夢を聞かせてほしい。

## 回答 所管課：LRT整備室、交通政策課

【市長】

LRTは国の認可が下りないと工事着工が出来ないが、今年中に認可をいただき、今年度中に着工したいと思っている。

そして、目標年次であるが、平成31年(2019年)に運行開始をしたいと考えている。

ICカードについては、2019年にLRTが開通する時に使用開始できるようにするため、研究なども始めており、他都市のICカードの活用方法を参考に、市内の公共交通で使用できるようにしていきたいので、これから、整合性など、具体的に進めていきたいと考えている。

ルートについて、JR宇都宮駅から東に鬼怒川を渡り、清原工業団地、芳賀・高根沢工業団地の本田技研北門前まで通していく。それを2019年までに完成させる。JR宇都宮駅の西側については、地元の商店街の方々や住民の方々が約20の団体をつくり、要望書を提出するという話を伺っている。駅西側については、バス事業者とLRTとの棲み分けをどのようにしていくか、どのように連携を取るかという研究を行っている。それがまとまれば、地元の後押しを受けて、国への認可申請をしていきたいと考えている。

駅東側は、芳賀・高根沢工業団地は芳賀町地内になっており、芳賀町としては真岡鐵道の市塙という駅が一番近いと思うので、そこに結節して真岡鐵道と相互利用が出来るようにしていきたいという話をしていた。その途中には芳賀町役場もあるので、芳賀町としては、人口を増やしていきたいという考えを持っているようだ。

駅西側は、予定では桜通り十文字までとしているが、まず東武鐵道と連携をしていきたい。そして西に延伸していくが、将来的には、大谷スマートインターチェンジまでの延伸を考えている。大谷を宇都宮の観光地として更に磨きをかけていくためには、大谷までの延伸も考えていく。

また、鹿沼への延伸については、鹿沼市自体がやると言ってくれないと難しいと思うが、LRTが東武宇都宮駅で結節することにより、宮原球場の西側で、東武線とJR日光線が歩道などで繋がれば、相互利用ができるので、知事が話している栃木県県土60分構想が十分に叶えられる計画になると思っている。

## 発言 1 LRTについて(1)(再)

新聞に報道されていないが、これは国の補助事業だろうけれど、補助率は何パーセントなのか。市は財政調整基金がいくらかあると思う。それもいいことだし、何かやる場合、赤字が当たり前だと私は思う。市民が便利になれば赤字でもいいと思う。間接補助であれば都道府県の補助が見込めるはずである。

## 回答 所管課：LRT整備室、交通政策課

【市長】

これから、人口減少・超高齢社会に入ることから、公共交通を充実させないと地方がまいてしまう。東京・大阪・名古屋といった三大都市圏は、公共交通が発達しているのだから、人が集まる。

しかし、地方である宇都宮市や芳賀町に、このまま住み続けて仕事も出来るまちをつかっていくためには公共交通を充実させなくてはならない。ただし、公共交通は民間がやれば赤字である。そこで、誰も手を付けたがらない。そこで、国が法律

を変えて作ったのが「上下分離方式」というものである。これは、建設費や車両費は国や県や市が支払うので、運営会社は経営だけに専念するというものである。

「上下分離方式」により、宇都宮の場合、駅東側のLRT建設費用は約400億円である。その2分の1を国が負担する制度を利用していく。残りの2分の1を地方が持つということになっている。つまり、宇都宮市と芳賀町ということになる。

これを一括で返済するわけではなく、市債の活用については、20年間で返済することを想定している。200億円を1年目から均等ではなく、まず、金利から払っていくので、1年目の返済額はおおよそ2億円になる。そこから増えていき、元利も含まれて返済額が最大の年が10年目前後となり、宇都宮市が払う金額が12億円から13億円ということになる。つまり宇都宮市が1年間でLRT事業に負担するお金は最大でも13億円ということになる。

本年度の一般会計の予算は2,053億円であるが、2,053億円の予算を持つ宇都宮市が、1年間に13億円を払うことは、大きな負担となり破綻をしてしまうかどうかということは、皆様には理解をしていただけたらと思う。身の丈に合った事業として、これから大きな価値を生み出していくものであり、超高齢社会・少子化社会においても組織機能を維持することができるということを御理解いただきたい。

## 発言2 LRTについて(2), 防犯灯のLEDについて

私は反対の立場から意見を述べさせていただく。

1日の利用が40,000人か45,000人と報道されていたが、どうして短い区間でこれだけの乗車人数がいるのかということが不信であった。

乗り換えしなければならないLRTが、どうして市民にとって利便性があるのか。現在、LRTをつくるにあたり、技術革新を想定しているかということであり、車は自動運転ができる時代になっている。高齢者にとって、乗り換えがある交通機関は、何ら利便性がない。ボタンを押して設定すれば、楽に自動運転で行けるようになるということと、あと、夢がないと思う。なぜ夢がないのかというと、近未来では自動車は道路の上(=空中)を走るのである。

100年後、地面を走る乗り物が、果たして利用されるのかどうか。将来は道路の上を車が走る社会に対して、今の段階から準備をしていくべきだと思う。これから橋を10本掛け、道路を10本つくれば、インフラはとても重要なので、100年経っても、道路のようなインフラというものは、技術革新においても確実に必要になってくる。

車が道路の上を走るような時代に、誰が地面を走るような乗り物を利用するのだろうかということである。最終的に13億円で済むのなら私もいいとは思いますが、最初は少ないと言っても、実際は約10倍赤字になるのが公共事業だとすれば、事業を凍結して、橋や道路の整備に予算をつぎ込んだほうが、将来の宇都宮市のためになる。夢がないとつまらない。高齢者が増えると言っても、技術革新がなされれば、十分に我々の生活が良くなるので、その点も考えていただき、LRTは凍結していただきたい。

次に、街灯のLED化について、現在は、申請をすればLED化をすることになっているが、通学路に面した場所はLEDにするが、そうでない場所はLEDにしないということなので、全体をLED化していかなければならないなら、手を挙げたところにはやってあげますということではなく、計画をして逐次全所LED化すべきだと思うので、通学路がどうこうということは撤廃して、順次、市がLED化していくべきだと思うので、お願いしたい。

|            |                                   |
|------------|-----------------------------------|
| <b>回 答</b> | <b>所管課：LRT整備室，交通政策課，財政課，生活安心課</b> |
|------------|-----------------------------------|

**【市長】**

これから10年後、20年後、今の若い人たちが住みやすいまちをつくっていくことが、私達の仕事であるので、皆様が納めていただいた税金を効率よく、そして孫子の代に負債として残すことなく、むしろ財産にすること、これが、宇都宮市が考えるLRTを1つの装置としてつくり上げていくネットワーク型コンパクトシティである。

LRTや鉄道、バスが細部まで網羅されても、家からバス停までは地域内交通になる。人工知能などにより、運転手なしで自動運転する車が開発されれば、地域内交通にそういう車を導入できるだろうから大いに活用すべきだと思う。

また、公共事業は赤字になるという意見をいただいた。1日あたりの採算であるが、宇都宮市は確かな需要を見込むため、まず、LRT利用が想定される清原工業団地内の企業、沿線の学校にLRTが運行したらどれくらい利用するかというヒアリング調査をした。次に、清原工業団地、芳賀工業団地と芳賀・高根沢工業団地、ベルモールの従業者に対して、LRTが運行したら利用するかというアンケート調査をした。そしてその次に、県央広域都市圏生活行動実態調査を行った。これは、宇都宮市を含めた7市7町42万世帯の中から11万5千世帯に対して調査をした。

この結果に基づき、利用者数を推計したところ、1日約1万6千人となり、歳入・歳出で黒字になることがわかった。

民間企業は黒字を出さなければならないので、黒字が出なければやめてしまうし、黒字にならないという予測であれば、民間企業は手を出さない。我々の仕事は、民間企業とは違うので、民間企業ではできない、あるいは民間企業が手を出さないが市民の生活のために必要なものをやらなければならない。

バス事業者は赤字のバス路線を抱えている。しかし、その路線がなくなると、その利用者は困ってしまうので、宇都宮市が県と一緒に赤字補填をしている。その額は年間1億円である。公共事業は、赤字・黒字という物差しではなく、必要か否かという物差しと、費用対効果として成立するかという物差しを持ってやるものだと思うので、公共交通は赤字でもやらなければならないと思っている。

利用人数については、「休日の沿線施設利用者」や「調査対象圏域外からの来訪者」を需要として見込んでいない。厳しく人数の算出を行った。

こうして、建設費や需要見込を精査して、宇都宮市としては自信を持ってこの計画

をあげた。

そして、収益から支払われる施設使用料などを皆様の公共交通に使っていけないかと考えている。ＩＣカードにより、高齢者割引率を高めたり、地域内交通を便利にするため本数やルートを増やしたりすることに使って、宇都宮市の公共交通を拡大していきたい。

防犯灯の設置・維持管理は、自治会に行っていていただき、ＬＥＤについて、市では、自治会の判断でどこに設置してもよいと各自治会に説明をしている。現在、多くの地区がＬＥＤに変えているので、予算が足りなくなれば補正予算で対応している。遠慮なく、ＬＥＤ化をしていただきたい。ＬＥＤのほうが明るくなるし、安全・安心に繋がるだけではなく、環境問題、ＣＯ<sub>2</sub>の削減ができるので、各自治会の皆様には積極的にＬＥＤに交換していただきたい。

## 発言 2 LRTについて(2)(再)

ＬＥＤ化ということであれば、こちらが手を上げなくても順次、市が行っていただきたいということである。

それと、ＬＲＴについて、黒字になるなら何も言うことはないが、赤字があるということは税金によって補われるということになるので、利便性がよくなっても、市民税が高くなれば、それは住みよいまちとは言えないと思うのでよろしくお願ひしたい。

## 回答 所管課：LRT整備室，財政課

市民の皆様が気になるのは、これからの子どもたちに借金を残したり、税金が上がるのではないかということだが、そのようなことは絶対にない。

宇都宮市の財政は、中核市の中で上から４番目に健全と言われている。借金も毎年確実に減らし続けている。ＬＲＴ事業が始まっても借金は毎年減り続ける。ＬＲＴだけをやるのではなく、あらゆる公共交通をどんどんつくり、公共交通で守られたまちをつくっていくことが目的であるので、御理解をいただきたい。

## ■自由討議(要旨)

### 発言 1 子どもの家について

待機児童の問題が、昨今、社会的な問題になっている。私どもは富士見小子どもの家の運営をしているが、現在、コミセンの裏側に２部屋、体育館の３階に１部屋を借りている。それでも足りないので、富士見小の会議室を借りている。

今年度は１４３名の希望があり、子どもの家の運営をしているところであるが、富士見小の会議室をこちらが独占してしまったのでＰＴＡ等の会議や富士見小学校の会議を行うにあたり、非常に困っている状況である。

加えて、狭あいであるため、トイレが２か所しかない。男性用１か所、女性用１か

所しかない状況で体育館の3階に子どもを預かっている問題もある。

子どもが急に具合が悪くなった時、保護者が迎えに来るまで待たせる場所もない。

そこで、ぜひピロティが空いているのでそこに増築して、放課後の子どもたちの安全な場所の確保をぜひお考えいただきたい。

|            |                  |
|------------|------------------|
| <b>回 答</b> | <b>所管課：生涯学習課</b> |
|------------|------------------|

【市長】

学校側の現状と学校長を始めとした学校側の考えと子どもの家の運営にあたって  
いる方々の御意見を伺って進めていきたいのでよろしくお願いしたい。

|              |                     |
|--------------|---------------------|
| <b>発 言 2</b> | <b>一条中学校の学区について</b> |
|--------------|---------------------|

今年の8月から一条中学校が移転してくる。そこで、昨年から通学区の変更があり、  
栃木街道から東側は一条中に通うことはよいのだが、その西側は全部宮の原中に通う  
ということで従来通りという形でしか進んでいない。

距離的には、富士見小から宮の原中まで18～20分かかった。それに対し、一条中  
までは約10分で行けた。

栃木街道から東というようにガイドラインを決めるのはよいのだが、それを西に寄  
ったから宮の原中というのは、子どもはそういうことを言っていられない。

小学6年生の孫がいるので学校管理課へ行き、話をしたところ、就学許可指定校変  
更許可基準に該当しなければだめだそうである。当該基準を見ていくと、「地理的理由」  
の中に「指定校までの片道の距離が小学校で4キロ、中学校で6キロを超えて」とあ  
るため、あなたの言うところは該当しないと言われた。

ひどいと思いつながりながら帰ってきたが、考えてみると、学校設置基準に則っていること  
に気が付いた。また、学校管理課が通学の承認をすることはおかしいのではないか思  
った。

通学路について、厳密な線引きではなく幅をもたせてほしい。

|            |                  |
|------------|------------------|
| <b>回 答</b> | <b>所管課：学校管理課</b> |
|------------|------------------|

【市長】

学区についてであるが、昔から、学区について満足できない方もいたが、線を引  
かないと、皆が自由に意見を言って皆が自由に学区の変更できることになってしま  
う。しかし、気持ちも十分わかるので、教育委員会、教育長に話をして、一条中学  
校の移転に伴って宮の原中学校の学区については教育委員会が何度も議論していた  
ようであるが、もう一度中身について確認をして連絡をする。

|              |                           |
|--------------|---------------------------|
| <b>発 言 3</b> | <b>鶴田おおぞら公園への倉庫設置について</b> |
|--------------|---------------------------|

公園内に公園の草刈りと清掃の用具を収納する倉庫をつくっていただきたい。

用具は現在私の自宅で預かり、保管しているが、今後いつまでもというわけにはならない。先々のことを考えたとき、後を引き継いでくれる後継の方々の負担にならないように今のうちからつくっておいていただけたらと思う。

倉庫の設置が無理である場合、提案として、この公園は災害時の避難場所に指定されている。緊急時の備蓄倉庫を設置し、併設若しくは一部を愛護会の倉庫として利用させていただけたらと思う。

|            |                  |
|------------|------------------|
| <b>回 答</b> | <b>所管課：公園管理課</b> |
|------------|------------------|

【市長】

愛護会が立ち上がらないところは、自治会の有志の方々が清掃していただいている。率先して愛護会を設立し、管理をしていただいていることに御礼申し上げます。

通常では、倉庫を公園に設置するのは難しいが、備蓄倉庫を併せてということも御提案いただき、良い案だと思った。出来るかどうかを含めて持ち帰らせていただき、御連絡をしたいと思う。このように困っている愛護会も多いと思うので、その辺を考えさせていただきたい。

|              |                       |
|--------------|-----------------------|
| <b>発 言 4</b> | <b>都市計画道路整備事業について</b> |
|--------------|-----------------------|

地域代表意見の都市計画道路の整備の推進について、どちらかという区画整理事業の話になったので、お尋ねしたいが、宇女校の南側の道路は西側に伸びて宮環のニトリの東側にある鶴田あおぞら公園の北側にある道路に都市計画道路が延びることだが、昭和48年か49年頃、市による都市計画道路と区画整理事業の説明会があり、区画整理事業は大変価値があるという話があったが、反対多数で頓挫してしまった。その当時、都市計画道路は変わらないという話があったまま20年経ってしまった。宇都宮市の道路行政というのは区画整理に則っているのか、まずそれを確認したい

そして都市計画道路は、道路行政の中のどのような位置づけにあるのか、相手があることだから、反対がなくなる限りつくれないという、いわゆる相手任せの道路行政なのか、教えていただきたい。

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| <b>回 答</b> | <b>所管課：市街地整備課，技術監理課</b> |
|------------|-------------------------|

【市長】

この地区について、区画整理事業が最善であると思うが、区画整理事業が困難である場合には、道路の新設ということになる。区画整理事業にするか道路整備だけにするのかを決めなければならない。例えば、都市計画道路整備を進めるとすると区画整理事業を行ってほしい方々からの反対があったり、また逆もあって、結局、どちらの事業も頓挫してしまうことになりかねないので、地元の中で話し合ってもらったことが一番だと思う。

都市計画道路については行政が積極的に土地を買収して、整備できることから着

工していく。買収が困難なところがあり，そこが通れば完成するという場合にはお願いをして事業を進めていく。

まずは地元の中で話し合っただき，決まれば行政が進めていければいいと思う。